

兵庫県支部

兵庫県下の農業の実態に関する調査研究

「農業法人の現状と課題」と「農産物流通の新しい動き」の2つをメインテーマとして取り上げて調査研究した。前者の調査研究では、兵庫県下の農業法人のアンケート調査と訪問調査を行い、後者の調査研究では、兵庫県農林水産部、JAの農産物直売所、インターネット販売事例企業等の訪問調査、および中央市場を通さない販売形態や従来の八百屋の枠を超えた販売形式を調査し、さらに伝統野菜に着目して行政と生産者の取り組みについて調査した。

農業法人のアンケート調査結果からは、兵庫県下の農業法人の特徴として、個人農家からの設立で10年以内が多く世代交代の時期を迎えていること、生産物の種類では水稻の構成比がまだまだ高いが、近年、地域の特産を生かした作物や新たな作物への取り組みも盛んに行われていること、また、設備投資が多額で機械の稼働率が低いことが効率的な経営のネックとなっていること、販売面では長らくJAや市場に依存してきたことで営業力は強いとはいえないが、直売店や契約栽培、通信販売等の新規販路開拓、観光農園や加工食品の製造・販売に積極的であることが分かった。

インタビュー結果からは、稲作中心にしている法人は経営が苦しくどの農業事業者も複合経営に熱心で稲作中心から野菜、花、そば、加工食品等と展開していること、販売ルートは、JA依存率はまだ高いもののJA依存から脱却して安定的な販売先を確保している法人は比較的収益性が良く経営的な感覚も高いこと、有機栽培についてはどの農業事業者も取り組んでいるが手間がかかり収穫量が少なく生産性向上が大きな課題であること、法人化している事業者は大規模な農業経営で悠然と経営を行っている事業者も多々あるが、非常に数の多い周辺中小規模農業事業者はほとんどが苦しい経営を強いられていること、近年、観光農園を訪れる消費者が増え、観光農園を始める個人農家や共同事業体が増加してきていること、耕作放棄地が増加する中で作業受託は増えているが稲作では売上げは増えても利益が出ない上に、どこまで受けることができるか分からず、担い手・後継者等の将来性にも不安があること、法人化のメリットについては法人化してもあまりいいことはなかったことなどが伺えた。

農産物流通の新しい動きの調査結果からは、卸売市場を経由して市中に出回る市場流通量の割合は、年々減少傾向にあり、卸売市場を経由しない流通は多様で、生産者からの直接買い付け、消費者団体による生産地からの直接買い付け、生産者による朝市・直売所での販売、インターネット・宅配便などを利用した販売などが多く行われていることが分かった。

最後に、スローガン倒れだった国内農業の基盤強化、ひょうごの「農」を生かす社会の実現、生活者に対する「安心・安全」「自然志向」「健康志向」の真の教育推進と儲かる農

業経営と農の再生、グローバル時代の新たな農業経営についての提言と、農業が抱えている課題、遊休農地の活用をどう推進するかについての提言をさせていただきました。